

ARIM におけるデータの共用

ARIM 事業では、共用機器等から創出されたデータ等を事業のシステム（RDE システム）へ登録することとしています。登録によりデータは構造化されるため、複雑なファイル構造をもつデータや多量のデータであっても、すぐに使える形となります。

構造化されたデータは、データ形式にそろえたデータセットとして蓄積されます。データ駆動型研究で進展の著しい機械学習などにも、煩わしい前処理などをせずにすぐにご利用いただけます。

事業で定められた一定期間の後に、蓄積されたデータセットは事業が認める第三者へ、原則として有償で共用します。共用は非営利・非商用とし、学術および研究目的に限定することで、日本のマテリアル産業の強化に資することを目的とします。

データ共用の流れ

1. データ登録

データ提供に同意頂いた利用者の方は、共用装置ご利用後に電子顕微鏡画像等を RDE システムへ登録ください。

2. エンバーゴ

ご利用の年度の年度末から最大 2 年間は、エンバーゴ期間となり、データは利用者の研究チームの方だけが利用することができます。事業スタッフも中身を見ることはできません。

エンバーゴ期間の間、利用で得られたデータを研究発表や特許出願等にご活用下さい。なお、エンバーゴ期間は申請により 1 年間延長することが可能です。

3. 広域シェア

エンバーゴ期間が過ぎた後、利用者みなさまの構造化データは ARIM 事業内でシェアされます。ARIM データ利用アカウントを持つ人^{※3}であれば、閲覧や検索ができるようになります。またシェアデータは、原則有償で提供されます。

シェアされた構造化データは第三者への非公開、非教示、非共有を利用条件とし、その目的は非営利・非商用の「学術および研究目的」に限定されます。

広域シェアとなったデータのご提供者がご希望の場合、

1. 課題番号
2. データ登録者の氏名、および連名者の氏名
3. データ登録者の組織名、および連名者の組織名

を非表示にすることができます。試料のメタデータなどその他の情報は非表示にはできません。